

中世前期の春日社・興福寺と南都陰陽師

赤澤春彦

Relationship between Kasuga Shrine/Kofuku-ji Temple and Nanto Ommyoji in the Early Middle Ages of Japan

AKAZAWA Haruhiko

はじめに

- ① 南都陰陽師の研究史
- ② 鎌倉期の南都陰陽師
- ③ 南都陰陽師の活動
おわりに

【論文要旨】

本稿は中世前期の南都陰陽師について検討したものである。南都には中世後期から近世にかけて賀茂氏の庶流である幸徳井家が定住していたことがよく知られている。同家は初代友幸以降、大乘院門跡と密接な関係を持つことよって三位に昇進し、賀茂氏の嫡流勘解由小路家の断絶以降、賀茂氏を代表する存在となった。しかし、南都陰陽師の嚆矢は幸徳井家ではない。すでに十三世紀の段階で興福寺には安倍氏の庶流陰陽師である安倍時資・晴泰が興福寺の「寺住陰陽師」として確認できるのである。彼らは南都に定住し、興福寺や春日社で発生した怪異に対する占筮や呪術を担い、造作の日次勘申を行っていた。ただ、そのすべてを取り扱っていたのではなく、国家行事や藤原氏長者に関する日次勘申は在京の官人陰陽師が行い、南都陰陽師は寺社内部に関する事柄を扱っていた。また、怪異が発生した場合も軽事は南都陰陽師が吉凶を占い、それが重事と判断されると京へ注進するといったような分業体制が取られていた。興福寺や春日社では頻発する怪異や寺社内部の活動が細分化されてゆく状況に迅速に対処するため、近辺に陰陽師を定住させたと考えられる。これら十三世紀から

確認できる南都陰陽師には二つの系統がある。一つは安倍氏庶流晴道党の晴泰、晴氏の系統、もう一つは安倍氏嫡流泰親流から分かれた時資、資朝の系統である。ただし、留意しておきたいのは、前者は複数の系図に確認できるのに対して、後者は「陰陽家系図（宮内庁書陵部所蔵）」にしか確認できない点である。また、同系図によれば時資の子孫が幸徳井友幸の先祖に当たるというのが、傍注に明らか事実誤認が複数確認できることから、後世の作為とみるのが妥当だろう。さらに吉川家文書（国立歴史民俗博物館所蔵）の「陰陽雑書写」から、時資らの先祖の本姓が惟宗氏であることが推察される。すなわち、幸徳井家はもともと惟宗氏であり、それが十三世紀の段階で安倍氏を名乗るようになり、十五世紀に賀茂氏へ改姓するのである。このように十五世紀に南都陰陽師として登場する幸徳井家は十三世紀の南都陰陽師安倍時資らの存在を前提としたものであったのである。

【キーワード】 南都陰陽師、春日社、興福寺、撰関家、幸徳井家、安倍氏